

アジア研究図書館所蔵の貴重書 —資料展出版資料から—

石井美千子

日本では開発途上国で出版された図書を収集する機関が数少ないなかで、アジア経済研究所図書館が所蔵する資料には希少なものが多く、また、欧米や日本で刊行される途上国関連図書も社会科学分野を中心に網羅的に収集してきた。一九五八年の研究所創立以前の出版物も古書店などをおとして収集されている。こうして収集した資料には、欧米の古書店の稀覯本目録に掲載されているものも少なくない。

本年二月、第二回アジア専門図書館国際会議が東京で開催されたが（本誌四月号参照）、そのオプシヨンプログラム（ライブラリーツアー）が当館で実施されるにあたり、「アジア経済研究所図書館貴重書コレクション」と題する資料展示を行った。本欄ではこの資料展に出版した資料をいくつか取り上げ、当館所蔵の貴重資料の一端を紹介する。なお、書名末尾に＊印があるものは当館ウェブサイトですべて紹介しているので参照されたい。

"Suite du voyage de Levant" par Monsieur de Thénart (Chez Charles Angot, 1674) は、一七世紀フランスの著名な旅行家ジャン・ド・テヴェノーの中東紀行。フランス古語で書かれた副題には「エジプト、シリア、メソポタミア、ユーフラテス・チグリスにて見聞した驚きの数々」とある。一六七四年刊行の本書はおそらく当館の蔵書で最も古いものである。また日本では他に所蔵が確認されている図書館はない。

"The history of Java" * by Thomas Stamford Raffles (Black, Parbury, and Allen, 1817) (全二巻)。イギリス植民地時代のジャワ副総督でシンガポールの建設者ラッフルズの名著『ジャワ誌』の初版本。ジャワの地理、民俗から産業まで詳細に調査して書かれたもの。この時代の書物は、細密画で風景、人、動植物、道具などが描かれた挿画が美しく、美術作品としても価値があると思われるが、この本の挿画だけを集めた本も

発行されている。

The parrot's training/ Rabinathan Tagore (Thacker, Spink & Co., 1918) は、インドの詩聖タゴールの著書。鳥の本性を無視したしつけをする愚かさを描く寓話で、甥のアバニンドラナート・タゴールによる挿絵つきの絵本といってもよい本である。一九五九年の現地事情調査の際購入されたものだが、調べてみた限り、世界的にも所蔵館の少ない大変希少な本である。

Aja'ib al-athar fi al-tarajimwa-al-akbarat al-Jabarti's History of Egypt/ by Abd al-Rahman al-Jabarti (アラビア語) (出版者不明、一八八〇年代 全四巻)。書名を直訳すると「伝記と歴史における事蹟の驚くべきこと」。内容は一八〜一九世紀のエジプト史である。近代エジプトの傑出した歴史家アブドゥルラフマーン・ブン・ハサン・アルジャバルティーの著作で、オスマン時代に途絶えていた編年体形式のイスラーム年代記の伝統を復活した著作として評価されているという。

アフリカ研究者の武内進一氏によれば「パンアフリカニズムの展開やアフリカの脱植民地化を検討する上できわめて重要なものである（当館ホームページ掲載の解説より）」。

Biblioteca de Mayo: Colección de obras y documentos para la historia argentina (Camara de Senadores, Congreso, República Argentina, 1960)。一八一〇年五月二五日、スペイン植民地だったブエノスアイレスが自治宣言をし、スペイン副王を退位に追い込んだ。これは「五月革命」と呼ばれている。アルゼンチン議会上院が革命一五〇周年を記念して刊行したのが本書「五月文庫」で、一八二〇年代までをカバーする全一七巻を所蔵する。なお日本では神戸大学経済経営研究所図書館が資料編にあたる一八〜一九巻も含めて全巻所蔵している。

「白凡逸志・金九自叙傳」(韓国語)(國士院 一九四七)は、抗日独立運動の志士・金九（キムグ）の自叙伝。再版、復刻が繰り返されている名著で、一九九七年には韓国の宝物一四四五号に指定されている。本書はその初版本で、金九の

雅号「白凡」の親筆が記されている貴重なもの。一九六八年に当館職員が現地の古書店で購入したものである。

Official guide for shippers & travellers to the Orient 1915-16/ by Osaka Shosen Kaisha (大阪 一九一五)は、大阪商船株式会社が荷主・船客向けに作成した案内書である。第一次世界大戦の戦争特需によって開設された新航路の宣伝のために刊行された。初版は一九一四年度版で、一九三三／三四年度版まで存在が確認されているが、アメリカ、オーストラリア、日本、シンガポールの図書館での所蔵を調べた限りでは、一九一五／一六年度版の所蔵館は他になく、きわめて希少なものである。上述のライブラリーツアーでは、シンガポールからの参加者がこの時代の航路がわかる資料として、後日閲覧のために来館された。この本の史料価値をあらためて教えられた次第である。

今回は外国人見学者向けに外国語文献だけの展示であったが、和書についても希少価値のあるものを展示する機会をつくりたいと思う。（いしい みちこ／アジア経済研究所 図書館）